

## 2024年5月26日（日）第二礼拝「イスラエルに対する教会の役割」 エレミヤ 31章 7-10節

この世の終わりが近づいたこととしるしとして、イエス様はいちじくの木の話をされました。「…枝が柔らかくなって、葉が出て来ると夏が近いことがわかります。…これらのことのすべてを見たら、あなたがたは、人の子が戸口まで近づいていると知りなさい。」(マタイ 24：32.33節) 「夏」は「終末」を意味します。イスラエル(いちじく)に終末のしるしを見たら、イエス様の再臨が近いということです。この世の終わりにイスラエルは全世界から戻ってきます。31節「イスラエルを散らした者(神様)がこれを集める。牧者が群れを飼うように、これを守る。」アリアは神様の働きであり、教会はこの働きを担っているのです。

第一番目、「ヤコブのために喜び歌え。」ヤコブ(イスラエル)を通して神様は聖書を与え、イエス様を送りました。三千五百年前に預言されたアリアは現在実現されています。また、イスラエルは二千年間、国がありませんでしたが、奇跡的に国家樹立しました。このように神様がイスラエルに約束されたことは全て実現し、神様は真実な方であることが分かります。「あなた(アブラハム)を祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。」(創世記 12：3) イスラエルを世界地図から無くすために沢山のミサイルを打ったイラン大統領は航空事故で亡くなりました。反対に、チョー牧師のイスラエルを祝福するメッセージを聞いた当時の韓国の大統領はイスラエルを祝福する立場を取りました。その結果、韓国経済は上昇したのです。また、杉原千畝氏がイスラエル人に六千名のビザを与えた結果、日本経済は世界第二位になりました。イスラエルを祝福する者は確かに祝福されるのです。

第二番目、アリアのための教会の働きです。8節「見よ。わたしは彼らを北の国から連れ出し、地の果てから彼らを集める。」神様は崩壊したソビエトや様々な国からユダヤ人を連れ出し集めてくださいました。そこには「目の見えない者も足のなえた者も、妊婦も産婦も共に」いました。今回の Jewish Agency のカンファレンスで、総裁は自分の子ども達が障害者であることを証しました。もし、ヒトラーの時代だったなら障害者は第一番目に抹殺されていました。しかし、イスラエルの神様は孤児ややもめ、よるべのない者など最も小さい者の神様です(マタイ 25：40)。学識のない貧しい者や病人、富豪も、イスラエルは差別なく受け入れてきました。「…彼らはあなたの息子たちをふところに抱いて来、あなたの娘たちは肩に負われて来る。」(イザヤ 49：22) これまで七千六百八十七名の方がアリアすることができ、ハマスの戦争後には百万名がアリアする見通しです。

第三番目、慰めです。「慰めよ。慰めよ。わたしの民を」(イザヤ 40：1) カトリックによる十字軍やマルティン・ルター、ヒトラーを通して、ユダヤ人は迫害・拷問・殺害されてきましたが、このような歴史をもつイスラエルを聖書は慰めるように命じています。総裁の家族のうち二人がハマスの攻撃によって亡くなり、四名の親族が人質にされたそうです。イスラエルは今も深い痛みの中にあります。メディアは反ユダヤ主義の立場で報道しますが、教会は真実に目を留め、ユダヤ人を慰める働きを担う必要があります。アーメン！